

福生駅西口地域でのアンケート調査結果について

清水 義朋 議員

質問 福生市商工会が行った福生西口地域まちづくりアンケート調査について、市はどう捉えているか。

市長 調査は地方創生の趣旨に合致していることから、交付金を活用し補助を行った。11月2日に調査報告会が開かれたが、地元の土地や建物所有者の意識としては、商業活性化に向けたテナント、住宅、公共施設導入等を求めており、まちづくり検討の機会・組織をつくる必要や参加の意向が示された。結果は市で実施した平成21年度調査の方向性と一致しており、次に進めるべきだと受

けとめている。



▲福生駅西口駅前の商店街

一般質問 (要旨)

市政のここを問う

今定例会では、16名の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。質問方式は3種類の選択制で、一括方式、一問一答方式、併用方式（一括と一問一答の併用）のいずれかを議員が選択し、質問しました。

要旨は一問とし3ページから5ページまでに掲載しました。一般質問の項目は6ページに全て掲載してあります。

詳しくは、2月中旬発行予定の会議録を市役所情報コーナー、図書館で、または福生市ホームページからご覧ください。

教員の資質・能力の向上にどう取り組んでいるのか

杉山 行男 議員

質問 学力向上には教師の指導力が大きい。教員には人を育てるといふ崇高な使命がある。教員の資質・能力の向上についてどう考えるか。

教育長 教育は人なりと考える。教員は常に探究心を持ち、学び続けることが不可欠である。本市では、若手育成に向けた独自の4年次研修を位置づけ、指導主事による個別指導により授業力向上を図っている。新たな全教員対象の特別支援教育研修会や、キャリアアップを目指した人材育成にも努め、成果につながっている。今後も、教員に求められる

力の育成を計画的に図っていく。



オスプレイ配備について国からの説明とその対応は

乙津 豊彦 議員

質問 CV-22オスプレイの横田飛行場配備に関する環境レビューと、MV-22のハワイでの事故について、国からの説明は。

市長 米国から環境レビューの情報提供を受けた国から、10月14日に来庁して説明を受けた。現行の騒音軽減措置の遵守、既存飛行経路の使用、また安全性は、運用を繰り返すことにより同規模のヘリと同様になるなどの内容だった。ハワイでの事故は報道後に国から情報提供があり、後日説明に何うとの連絡があったが、遅れる場合は国に出向いて十分な説

明を聴いてまいりたい。



▲CV-22の横田飛行場配備に関する環境レビュー

旧田村家古民家の改修状況と当面の活用について

大野 聡 議員

質問 旧ヤマジユウ田村家住宅の文化財保存に向けた改修状況、改修後の当面の活用を伺う。

教育長 平成28年3月末までの工期で着手した。国の登録有形文化財であり、傷んだ場所は基本形状に近いイメージで修繕するが、特徴的な箇所は極力手を加えないよう努める等の設計とし、建物自体の歪みの補正を行いながら工事を進める。改修後は、28年度のできるだけ早い時期に一般公開を行い、資料の展示等を通じ郷土学習の場として活用していく。古民家関連資料のほか、宿橋通

りの復元図等の展示も考えている。



▲改良工事中の旧ヤマジユウ田村家住宅

市内のスポーツ振興、育成をどう支援していくのか

町田 成司 議員

質問 育成の面からスポーツ振興をどう考えているか。一般人の全国大会等への出場支援や、そのためのスポーツ基金設立の考えはどうか。

教育長 「スポーツが夢と元気を生みだすまち ふっさ」の実現に向け、体育協会等を通じてスポーツ団体に支援を行っており、今後も引き続き市民の健康づくり、競技力向上、生涯スポーツ振興を目指して支援していきたい。一般の方々が全国大会に参加する場合、現在、特に支援は行っていない。

査を行い実施状況の把握に努める。



▲市民総合体育大会インディアカ競技

教育部長 他の自治体について調

日本語能力の十分でない生徒にどう対応していくか

幡垣 正生 議員

質問 日本語能力が、不十分な外国籍生徒の日本語習得への対応は。

教育長 外国籍児童が多く在籍し、日本語の能力が不十分で、特別な指導を行う必要があるために第一小学校に日本語学級を設置している。一方、中学校では、東京都教育委員会による日本語指導加配教員や本市独自の日本語適応支援員の配置による在籍校での日本語適応指導を行ってきた。また、市内NPO法人とも連携してきたが、公的な指導を充実させるため、新たに平成28年4月に第二中学校に日本語通級指導学級設置

に向け計画している。



▲日本語通級指導学級を紹介する福生第一小学校の学校だより

子ども・子育て支援事業計画の考え方と取り組みについて

佐藤 弘治 議員

質問 子ども・子育て支援事業計画を策定し、「子育てするならふっさ」を掲げる福生市だが、計画策定の基本的な考え方、本市ならではの取り組みとは。

市長 計画は「子どもの育ちと子育ての喜びが実感できるまち」を基本理念に策定した。独自の取り組みは、ふっさっ子の広場の全小学校での実施、商店街と連携した子育て支援カード発行等がある。子ども応援館には福祉部門の子ども家庭支援センターと教育部門の教育相談室が併設されており、連携した相談支援を

行う等、子育て支援に努めている。



▲福生市子ども・子育て支援事業計画